



元気っ子通信

No.62

平成 27 年 12 月 22 日発行

1年の経つ早さは個々人によって違いがあると思いますが、ほとんどの人は「もう来年が来る」とびっくりし、中には焦りを感じておられる方もいらっしゃるでしょう。

70才を目前にしてくとジェット機のような速さで1年が過ぎていきます。

父がよく言っていた「ただうかうかと20年、あれもこれもと20年、これではこれではと20年、これが人生さ」を思い出す時期です。

昨年、シリア難民が母国を捨てゴムボートに乗り命がけでヨーロッパへ向けての逃避行の記録番組を見て涙がでました。一組の母子に焦点をあてていましたが、若い母親は赤ん坊を抱きかかえ、2人の幼い子供の手をひき、寒い路上で仮眠をとりひたすら歩き続け、疲労で子どもは熱をだし、赤ん坊のオムツは恵んでもらい6000キロを歩いて夫の待つドイツへたどりつきました。夫が先に行ったのは子どもが幼くて無理だから、難民申請をして呼び寄せようと考えていたそうです。母子の住んでいた家は家を出た直後に爆撃で破壊されていました。母親の決断で命が救われたのです。

家族8人で高いお金を出しボートでシリアを脱出し、高波で転覆し、父親だけが対岸まで泳ぎ着いて、妻と6人の子どもを呼びながら気が狂ったように泣いている父親の姿もニュースで見ました。

フィリピンでは7歳の子供まで学校に行かずに家族を支えるために朝から晩まで砂金採りをして働いています。「学校に行きたい」という子どもの声が耳から離れません。砂金を集めるために桶の中に水銀を入れて素手で砂をこねまわしていました。水俣病を思い出し、10年後のこの子たちを思いぞっとしました。

これはほんの一部の話です。今も世界中で信じられないことが起きています。

学童で友だちと笑い転げ、けんかして涙を流す、こんなあたりまえの生活がどんなに幸せなことかをわかってほしいなと思います

お正月は日本の大切な行事のひとつです。イベントにふりまわされずに昔から引き継いできたものをたいせつに次へつないでいきましょう。

良いお年をお迎えください。



以 上